

TOPICS
3 社会福祉法人風の馬
3保育園で卒園式

大きな未来を見つめて。

平成31年3月、幼保連携型認定こども園ペガサス保育園は22名、同じくこども園ペガサス第二保育園は27名、そして、小規模保育園ペガサス保育園つばさは8名の園児が卒園をしました。いずれも、それぞれの保育園職員による手づくりの卒園式。当日ご参加くださった保護者の方、そして、職員たちの喜びの涙が見られるなか、元気に巣立ちました。

卒園児は、これから小学校、あるいは幼稚園、保育園へと進む先は異なります。

また、ペガサス保育園つばさの卒園児のなかで、医療的ケア児は、堺市との協議のうえ、ペガサス保育園に入園することも決まっています。そのすべての子どもたちが、ペガサスの保育園でのお友だちとの日々を忘れず、これからも笑顔で、大きな未来に向かって歩み続けてほしいと心から願っています。

TOPICS
4 社会医療法人ペガサス
多職種合同説明会を開催

ペガサスの翼にあなたも!

医療を核として、地域社会のヘルスケアに関わるさまざまな分野に、積極的に翼を広げる私たちペガサス。目標とする事業拡大を見つめ、スタッフを募集しています。職種は、看護師・薬剤師・社会福祉

士・ケアマネジャー・管理栄養士・セラピスト・介護職・事務職。あなたもぜひ合同説明会にご参加ください。

5月6月7月の第4木曜日はペガサスへ!

合同説明会開催日	《3日間共通》
●5月23日(木)	14時～ 法人概要説明
●6月27日(木)	14時30分～ 見学・説明
●7月25日(木)	15時 ティーパーティ
	16時 終了

ペガサス健診センターの
ご案内

お問い合わせ/072-265-6006

ペガサス健診センターは、最新鋭の医療機器を使用し、適切な診断を提供しています。一般健診・企業健診、人間ドックなど、多彩なメニューからお選びいただけます。



ペガサス地域包括ケアセンター

場所: 馬場記念病院 総合案内横
時間: 平日9時30分～12時まで

健康のことから在宅介護まで。多様なニーズに対応する「なんでも相談」窓口を設置しています。まずはお気軽にご相談ください。

お問い合わせ/TEL:072-265-5558 (担当 平岩)

「なんでも相談」
窓口ありますペガサスグループ
株式会社ユニコ

取り扱う紙おむつは
148種類。
大幅な値下げも
実施中です。

堺市
紙おむつ
給付券
OK!●お問い合わせ
TEL:0120-062-505

私たちと一緒に働きましょう。

随時受付
しています

介護職員募集中! 正職員採用

いつでもご連絡いただければ、ペガサスグループの施設見学などへご案内します。どうぞお気軽にお問い合わせください。

障がいをお持ちの方、一緒に働きませんか

※障がい者手帳をお持ちの方。正職員への雇用変更もあり
業務は、A)書類の印刷、製本 B)洗濯 C)清掃
D)データ入力 E)資料作成等。

お問い合わせ/馬場記念病院 人事課 TEL:072-265-9089

社会医療法人ペガサス公式 Facebook ページ
<https://www.facebook.com/s.m.c.pegasus>

seminar

5月 ペガサスセミナー

CTの歴史と病気の
発見について

講師:放射線科 部長 山田哲也
日時:5月30日(木)午後2時～3時
場所:馬場記念病院 1階ロビー

5月 ペルセウス介護
支援セミナー梅雨の今こそ気を付けて!
高齢者の水分管理

講師:看護師長 藤田佳子
日時:5月29日(水)午後2時30分～
場所:介護療養型老人保健施設
ペルセウス3階食堂

6月 ペガサスセミナー
和泉脱水・熱中症を
予防しよう!

講師:看護師 辻畑奈緒美
日時:6月27日(木)午後2時～3時
場所:介護療養型老人保健施設エクス

6月 ロイヤルリゾート
健康相談会

あじさい祭り 開催予定



日時:6月5日(水)正午～
場所:ペガサスロイヤルリゾート

ペガサスマンモサوندهー

開催予定

【開催日】(予定)
5月26日(日)

【開催時間】
10時～13時

【お問い合せ】

TEL:072-265-6006
(ペガサス健診センター)

PEGASUS
NEWS

ペガサスニュース

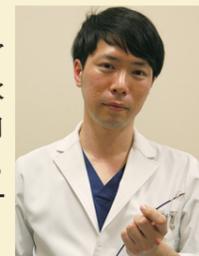
発行人/馬場武彦
発行/社会医療法人ペガサス
大阪府堺市西区浜寺船尾町東4-244
<http://www.pegasus.or.jp/>
編集/ペガサス広報委員会 編集グループ
編集協力/HIPコーポレーション
発行/令和元年5月5日

Vol.85

ペガサスから地域の皆さまへ

馬場記念病院 循環器科のアブレーション治療。より難解で、
治療困難な頻脈性不整脈治療が、これまで以上に可能となりました。大阪で三施設目。超高解像度の、3次元マッピング
システム<リズミア>導入!

当院の循環器科では、不整脈のアブレーション治療における、新たな3次元マッピングシステムを導入しました。同科の長谷川聡史医師がご紹介します。

●心臓の異常な電気の流れを遮断する
アブレーション治療

「不整脈とは、心臓の拍動リズムに異常を来す状態を指し、これは本来、心臓のなかを走る刺激伝導系(心筋の壁に埋め込まれている電気回路)によって制御されている電気の流れが、正常に働かないことから起こります。この異常な電気の流れを遮断するのが、アブレーション治療です」。

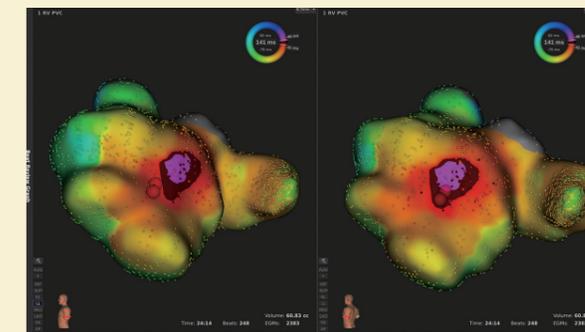
●より詳細、より高精度な3次元マッピングが可能

「アブレーション治療は、静脈からカテーテルを挿入して心臓まで到達させ、電流により組織細胞を壊死させるもの。そのためには、異常な電気が流れる箇所の特が必要であり、重要になるのが、



連続的に電気を捨てるミニバスケット電極

心臓の立体的なマップ(地図)を描く3次元マッピングシステムです。今回当科が導入したのは、特定の回路を持ち電気が流れる頻脈性不整脈において、より詳細、より高精度なマッピングが可能なくリズミアマッピングシステムです」。



リズミアマッピングシステムの画像例

●患者さまの負担を軽減する低侵襲・短時間治療

「このシステムは、スピードは以前より格段に早く、心臓の全体を正確に網羅します。つまり、本当に病的な部位を迅速に判断でき、その一点だけに電流を通すだけで治療ができる。低侵襲・短時間の治療は、難治性不整脈の患者さまにおいても、手術負担の軽減に大きく繋がると思います。<リズミア>と以前から活用したシステムを、疾患、症状により使い分けて、最善の治療を患者さまに提供したいと考えます」。

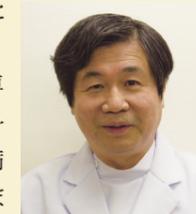
馬場記念病院の専門外来に、
新たに糖尿病の専門医が赴任しました。

わが国では糖尿病を患う人が急速に増えています。糖尿病は、初期段階で自覚症状のないケースがほとんどで、気づいたときには重症化していた、また、病状が進んで合併症を併発していたなど、生活の質が著しく低下します。

ペガサスでは、馬場記念病院での専門外来の設置、ペガサス健診センターにて生活習慣病予防健診を実施するなど、糖尿病の予防、早期発見、診療に力を注ぐなか、今年4月、馬

場記念病院の新たな糖尿病常勤医として、嶺尾郁夫医師が赴任しました。

嶺尾医師は、日本糖尿病学会の専門医・指導医、日本内科学会認定内科医です。これまでは大学病院、公立病院などで豊富な臨床経験を積んできました。赴任にあたり嶺尾医師は、「地域 糖尿病専門医 嶺尾郁夫医師で高い実績と評価を得ている当院で、糖尿病、痛風、内分泌代謝内科領域の専門医として、地域の皆さまの健康的な生活に貢献したいと思います」と語っています。



新入職

医療人、社会人として、
今年は91名がスタートを切りました。

ペガサスグループでは、毎年4月たくさんのお新入職を迎えます。今年は91名が入職。平成31年4月1日～3日は、入職式と新入職員研修を開催しました。

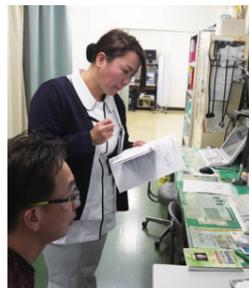
第一日目は、理事長の馬場武彦による辞令交付のあと、理事長による「法人運営方針『社会医療法人ペガサスの理念』」をはじめ、医療人・社会人に必要な基礎知識を学びました。第二日目は、「感染対策」、「昨今の医療情勢とペガサスの規則」、「ペガサスエンター制度」「ペガサス勤務事始め：医療倫理と医療安全」など、ペガサスで働く社会人としての知識を習得しました。

そして第三日目は、臨床現場体験です。これは新入職員が2～5名のグループに分かれ、馬場記念病院、ペガサスリハビリテーション病院、介護療養型老人保健施設ペルセウスなど、ペガサスグループ13箇所の施設や事業所にて、実際に患者さまやご利用者のお世話を体験するというもの。みんな、最初は緊張いっぱい顔でしたが、体験が進むうちに笑顔を見せるようになり、患者さまやご利用者との会話も見られました。

体験が終わったあとは、グループワークです。テーマは、「今年1年間、ペガサスで実践する『患者さま・ご利用者中心の医療・介護・福祉』を考え

る」。約5時間に亘る現場体験を通して知ったこと、考えたことをディスカッションし、そこから1年間の自分たちの目標を決めていきます。そしてその後は、みんなの前で発表。最後には、理事長の馬場からの講評を聞き、三日間の研修を終了させました。

91名は、なかには中途入職の者もありますが、ほとんどが新卒者です。医療にも、社会にも、最初の一步を始めたばかり。ドキドキしながらも、大きな夢を描きつつ、プロへの道を歩んでいきます。皆さまには、どうぞ温かく、長い目で見守ってくださいますようお願いいたします。

TOPICS
1 馬場記念病院
初期臨床研修医の紹介全職員が力を合わせ、
4名の研修医を育てています。

医師は、国家資格を取ったあと、実際の医療の場で、2年間の初期臨床研修を受けることが義務付けられています。研修先は、それぞれの医師が自由に選ぶことができ、本年度は4名が当院での研修をスタートさせています。

楠本健太

当院は地域基幹病院であり、幅広い症例をもとに豊富な臨床経験を積むことができます。研修では、救急疾患の初期治療に関する技量を習得し、総合的に幅広く診察・治療できる能力を、身につけたいですね。将来は、スペシャリストであり、ジェネラリストである医師になるのが目標。仕事にも趣味にも全力で臨み、自分も周りの人も幸せにできる人間になりたいと思います。



辻野正志

患者さまから感謝される医師になりたい。これが僕の目標であり、その実現のためにこの病院を選びました。当



院なら救急、急性期、回復期、慢性期、在宅支援まで、あらゆる医療ステージで患者さまと向き合うことができます。ニーズの違いを学び、最善の医療を実現していきたいですね。また、さまざまな症例の初期対応を中心に、救急診療の基本を学びたいと考えています。

夏原啓輝

地域に根ざした医療、地域完結型の医療を学び、今後、どういった技術や手技が求められるか、しっかり考えたくて当院を選びました。専門的な知識や技術、患者さまとの関わり方、求められることを、しっかり学びたいですね。一人ひとりの患者さまに寄り添い、その方が望む医療を実現できる医師。これをめざして、真摯な姿勢を忘れず、一つひとつのことに取り組んでいきます。



久富隆寛

当院には多くの診療科があり、ステージも救急、急性期、回復期、慢性期、在宅支援まで広がっています。さまざまな経験と学びの機会があると、この2年間を楽しみにしています。知識や技術、患者さまとの接し方など、先輩医師から吸収できることは、すべて吸収したいと思います。目標は、患者さまが安心できる医師になること。少しでも早く目標に近づけるよう日々精進します。

TOPICS
2 ペガサスグループ
第7回南大阪リハビリテーション・ケア学会学び、考え、実践、
そして、研究した成果を発表しました。

ペガサスでは、数えて7回目の「南大阪リハビリテーション・ケア学会」を、平成31年3月30日に馬場記念病院にて開催しました。当学会は、地域の皆さまの生活向上への貢献をめざし、南大阪でリハビリテーションに関わる全職種を対象とした活動です。

当日は、332名（院内170名、院外162名）が参加し、研究発表は、62演題。日々の業務で出会った患者さま、ご家族への支援を通して学び、考え、実践したことをもとに、さらにより良いリハビリテーション、ケアの実現をめざして研究を重ねた成果を発表しました。学会の最後には、優秀賞10名、そして、最優秀賞には、



●先駆者たちの貴重な講演に聞き入りしました。

当学会では、毎回、リハビリテーション医療界における著名な講師をお迎えしています。今回は、黒岩恭子氏（村田歯科医院 院長）、紙屋克子氏（筑波大学 名誉教授）、そして、浜村明德氏（医療法人共和会小倉リハビリテーション病院 名誉院長）がお越しくいただきました。お三方は、歯科・看護・医科と領域は異なりますが、わが国にリハビリテーション医療・看護を根付かせる、また、医療・介護現場の口腔ケア追求など、リハビリテーション・ケアの先駆者だからこそ、貴重なお話を解りやすく語ってくださり、学会参加者は、時間が過ぎるのを忘れるほど、引き込まれるように聞き入っていました。



黒岩恭子氏



紙屋克子氏



浜村明德氏